
【テキスト中に現れる記号について】

《 》：ルビ
(例) 俊爽《しゅんさう》

|：ルビの付く文字列の始まりを特定する記号
(例) 東西 | 芸苑《げいえん》の

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定
(数字は、JIS X 0213の面区点番号、または底本のページと行数)
(例) [# 「警」の「言」に代えて「手」、第3水準1-84-92] 天《けいてん》

鏡花泉先生は古今に独歩する文宗なり。先生が俊爽《しゅんさう》の才、美人を写して化を奪ふや、太真《たいしん》閣前《かくぜん》、牡丹《ぼたん》に芬芬《ふんふん》の香を発し、先生が清超の思、神鬼を描いて妙に入るや、鄒湛《すうたん》宅外、楊柳に啾啾《しゅうしゅう》の声を生ずるは已《すで》に天下の伝称する所、我等亦多言するを須《もち》ひずと雖《いえど》も、其の明治大正の文芸に羅曼《ロマン》主義の大道を打開し、艶《えん》は巫山《ふざん》の雨意よりも濃に、壮は易水の風色よりも烈なる鏡花世界を現出したるは啻《ただ》に一代の壮拳たるのみならず、又実に百世に炳焉《へいえん》たる東西 | 芸苑《げいえん》の盛観と言ふ可し。

先生作る所の小説戯曲隨筆等、長短 | 錯落《さくらく》として五百余編。経《けい》には江戸三百年の風流を吞却《どんきやく》して、万変自ら寸心に溢れ、緯《ゐ》には海東六十州の人情を曲尽して、一息忽ち千載に通ず。真に是れ無縫天上の錦衣。古は先生の胸中に縋《あつま》つて藍玉《らんぎよく》愈 | 温潤《おんじゅん》に、新は先生の筆下より発して蚌珠《ぼうしゅ》益 | 粲然《さんぜん》たり。加之《しかのみならず》先生の識見、直ちに本来の性情より出で、夙《つと》に泰西 | 輓近《ばんきん》の思想を道破せるもの勘《すくな》からず。其の邪を罵り、俗を嗤《わら》ふや、一片氷雪の気天外より来り、我等の眉宇《びう》を撲《う》たんとするの概あり。試みに先生等身の著作を以て仏蘭西羅曼《フランスロマン》主義の諸大家に比せんか、質は [# 「警」の「言」に代えて「手」、第3水準1-84-92] 天《けいてん》七宝の柱、メリメエの巧を凌駕す可《べ》く、量は拔地無憂の樹、バルザックの大に肩随《けんずゐ》す可し。先生の業 | 亦《また》偉《おほ》いなる哉。

先生の業の偉いなるは固《もと》より先生の天質に出づ。然りと雖《いへど》も、其一半は兀兀《こつこつ》三十余年の間、文学 | 三昧《ざんまい》に精進したる先生の勇猛に帰せざる可からず。言ふを休めよ、騷人清閑多しと。瘦容《そうよう》豈《あに》詩魔《しま》の為のみならんや。往昔自然主義新に興り、流俗の之に雷同するや、塵霧《じんむ》屢《しばしば》高鳥を悲しましめ、泥沙《でいさ》頻《しきり》に老龍を困しましむ。先生此逆境に立ちて、隻手 | 羅曼《ロマン》主義の頹瀾《たいらん》を支へ、孤節《こせつ》紅葉《こうえふ》山人の衣鉢を守る。輾軻《かんか》不遇の情、独往大步の意、俱《とも》に相見するに堪《た》へたりと言ふ可し。我等皆 | 心織筆耕《しんしきひつかう》の徒、市に良驥《りやうき》の長鳴を聞いて知己を誇るものに非ずと雖《いへど》も、野に白鶴の廻飛《くわいひ》を望んで壮志を鼓《こ》せること幾回なるを知らず。一朝天風 | 妖氛《えうふん》を払ひ海内の文章先生に落つ。噫《ああ》、噓、先生の業、何ぞ千万の愁《うれひ》無くして成らんや。我等手を額《ひたひ》に加へて鏡花楼上の慶雲を見る。欣懷《きんくわい》破願を禁ず可からずと雖《いへど》も、眼底又淚無き能はざるものあり。

先生今「鏡花全集」十五巻を編し、巨靈《きよれい》神斧《しんぷ》の痕《あと》を残さんとするに当り我等知を先生に辱《かたじけな》うするもの敢て [# 「言+剪」、第4水準2-88-73] 劣《せんれつ》の才を以て参丁校対《さんていかうつゐ》の事に従ふ。微力其任に堪へずと雖も、当代の人目を聳動《しょうどう》したる雄篇 | 鉅作《くさく》は問ふを待たず、治《あまね》く江湖に散佚《さんいつ》せる万顆《ばんくわ》の零玉《れいぎよく》細珠《さいしゅ》を集め、一も遺漏《ゐろう》無からんことを期せり。先生が独造の別乾坤《べつけんこん》、恐らくは是より完《まつた》からん乎。古人曰「欲窮千里眼更上一層樓《きはまらんとほつすせんりのめさらにいつそうろうをのぼらん》」と。博雅の君子亦「鏡花全集」を得て後、先生が日光晶徹の文、哀歡双双《あいくわんさうさう》人生《じんせい》を照らして、春水欄前に虚碧《きよへき》を漾《ただよ》はせ、春水雲外に乱青《らんせい》を畳める未曾有の壯觀を恣《ほしいまま》にす可し。若し夫れ其大略を知らんと欲せば、「鏡花全集」十五巻の目録、悉《ことごとく》載せて此文後に在り。仰ぎ願くは瀏覧《りうらん》を賜へ。
[# 地から1字上げ] (大正十四年三月)

底本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集第五巻」筑摩書房
1971（昭和46）年7月5日初版発行

入力：山田豊

校正：菅野朋子

1999年5月26日公開

2004年2月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。